

目次

はじめに.....	3
第1部 国際島嶼教育研究センターを中心とした活動	4
1-1. はじめに.....	4
1-2. 奄美分室の活動.....	5
1-3. 教育・講演会等.....	7
1-3-1. シンポジウム.....	7
1-3-2. 奄美群島 島めぐり講演会.....	8
1-3-3. 陸上植物の観察会.....	10
1-3-4. 水圏生物観察会.....	11
1-3-5. 奄美テレビと Youtube による教育普及活動.....	12
1-4. 研究報告.....	14
1-4-1. 奄美大島における統合型モニタリングシステムの構築.....	15
1-4-2. 異なる光環境における侵略的外来種オウゴンカズラの生存能力.....	18
1-4-3. 奄美大島における照葉樹林の種組成と伐採履歴および微地形との関係.....	20
1-4-4. 奄美群島の在来植物と外来植物の野外調査と遺伝的解析4.....	22
1-4-5. 奄美群島における外来植物の侵入と定着のメカニズム － 広域のフロラ解析とセンダングサ属に注目した実験 －.....	24
1-4-6. 薩南諸島の植物多様性に関する植物標本・現況調査.....	26
1-4-7. 奄美群島の普通種を中心とした植物相調査.....	28
1-4-8. 動物被食散布型果実における海流散布の可能性.....	30
1-4-9. 長命草（ボタンボウフウ）の分布調査と島嶼部の作物の塩害の作用機作解明 および回避技術の確立.....	32
1-4-10. 南西諸島における在来カンキツの分布とその特性.....	34
1-4-11. スモモ‘カラリ’の台木としての活用に関する予備的調査.....	37
1-4-12. アマミノクロウサギにおける生殖生理の解明（予報）.....	39
1-4-13. 電気柵による農地へのアマミノクロウサギの侵入防止.....	42
1-4-14. 奄美大島におけるノヤギの食害および捕獲状況に関する継続調査.....	46
1-4-15. 薩南諸島の島嶼における陸産貝類相の調査.....	50
1-4-16. トカラ列島におけるキバガ上科小蛾類の記録.....	55
1-4-17. 海浜性昆虫ハマズズの基礎生態-体色の適応的意義と交尾行動.....	57
1-4-18. 奄美群島3島（奄美大島・喜界島・沖永良部島）における魚類相調査.....	60
1-4-19. 水圏に暮らす共生・寄生物の研究 － 亜熱帯水域における生物の種多様化解明にむけて －.....	63
1-4-20. 奄美群島におけるウミエラ類の多様性と分類.....	66
1-4-21. 奄美群島における魚介類の高付加価値出荷の取り組みの成果と課題.....	68
1-4-22. 甌島の海洋深層水を利用したアワビ陸上養殖の試み.....	70

1-4-23. 近世奄美群島における陶磁器流通：考古学資料と伝来資料の比較.....	72
1-4-24. 奄美大島市道三太郎線周辺における利用適正化に関する調査.....	75
1-4-25. 奄美群島における戦争の記憶.....	77
1-4-26. 民謡研究者・久保けんおの遺稿研究.....	80
1-4-27. 鹿児島産植物および海洋生物からの有用二次代謝産物の探索研究.....	82
1-4-28. Unmanned Aerial Vehicle (UAV) による空撮写真を用いた奄美大島笠利半島の 段丘区分.....	87
1-4-29. 喜界島の離水年代の異なるサンゴ礁段丘上に発達する土壌の特性評価.....	90
1-4-30. 三島村・鬼界カルデラジオパークを活用した教育「地球（ジオ）科」の開発研究	93
1-4-31. 奄美大島の玄武岩の産状と地球化学について.....	95
1-4-32. 硫黄島の温泉水・湧水のラドン濃度と溶存イオン組成について.....	98
1-4-33. ケーブルカメラシステムを用いた農業用温室内の映像モニタリング.....	100
1-4-34. 薩南諸島におけるマングローブ林空撮によるグリーンインフラ調査.....	103
1-4-35. 島に『スマート農業』がやってきたー徳之島でのサトウキビ栽培の 高度化を巡る社会観察記録の蓄積.....	106
1-4-36. IoT システムによる徳之島のサトウキビ畑の圃場面の可視化.....	108
1-4-37. 産学・地域連携の島嶼部展開における参与観察.....	110
1-4-38. 島嶼域におけるものづくり産業の現状と課題、発展可能性調査.....	112
1-5. 出版物・学会発表.....	114
1-5-1. 論文・著書等.....	114
1-5-2. 学会等発表.....	127
第二部 法文学部を中心とした活動.....	132
2-1. はじめに.....	132
2-2. 『奄美新報』を探る.....	133
2-3. 奄美群島における母子世帯の経済問題の実態について.....	139
2-4. 徳之島における文化・自然遺産の分野横断型調査.....	144
2-5. 世界自然遺産を地域資源とした教育のバリアフリー化.....	157
2-6. 与論島におけるアクティブ・ラーニング型の授業実践.....	167
2-7. 2021 年度澤田ゼミ沖永良部研究報告.....	169

はじめに

本プロジェクトは、国際島嶼教育研究センター（島嶼研）が中心となって準備してきたプロジェクトと法文学部が準備したプロジェクトに類似性があり、合同して行ってはという事で、一つのプロジェクトとして令和2年度から3年度に実施されたものである。島嶼研のプロジェクトには法文学部教員の一部も参加しているが理系中心の事業であり、法文学部のプロジェクトは文系の事業であった。科学は研究が進めば進むほど専門化していくので、文理融合といってもそれぞれの専門家が現在行うべきと考える内容には大きな隔たりがあることが多い。そのため個々の研究教育活動はそれぞれ独自に行うことが多かったが、プロジェクト期間の中間と最後に実施したシンポジウムは合同で行い、それぞれが進めてきた個別の事業について理解を深めあうことができた。またここに一つの報告書としてまとめることができた。2年間という短いプロジェクトであり、まだこれからも奄美群島における教育研究を続けていく必要がある。この報告書が将来の活動の一助になれば幸いである。

2022年2月

編集委員

島嶼研

鈴木英治・河合 溪

法文学部

松田忠大・藤内哲也